

TERENCE LEE

テレンス・リー

リスク管理コーディネーター

本誌
大人気連載!!
「バウンティハンター」
コミックス①・②巻
★同時発売
記念企画★

KEN KITASHIBA

北芝 健

「内閣権力犯罪強制
取締官財前丈太郎」 原作者

SHUICHI ARAKI

荒木 秀一

「バウンティハンター」原作者

維持世界一の誇り
現金で葬れ!!

ゲン
ナマ

財務省を盛り場に持っていく!

官僚が怖い思いをすれば警察予算が増える 北芝

本誌大好評連載中の「バウンティハンター」が、コミックス化されることとなった。

米国犯罪逃亡者追跡人（FRP連邦捜査官）の資格を持つ唯一の日本人、荒木秀一氏を原作に迎えて、近未来の日本に賞金稼ぎ制度が導入されたと仮定。様々な事件が現代日本の治安維持の問題点を浮き彫りにしていくこの作品は、一般読者のみならず、リスク管理に携わる諸関係者の間でも大きな反響を巻き起こしている。

そこで、荒木秀一氏、元警視庁刑事の北芝健氏、そして元傭兵でリスク管理コーディネーターのテレンス・リー氏をお迎えし、「バウンティハンター」から垣間見える日本の問題を改めて問い直してみることにした。ここから、我々が選択すべき道が見えてくるはずだ。

BUNCH（以下 **B**）世田谷一家四人殺害事件や奈良女児殺害事件など、再度ここで取り上げるまでもなく世の中を震撼させる猟奇事件が相次いで発生しています。しかも犯人が逮捕されない、あるいは逮捕されるまでに非常に時間を要するという状況は、読者の方々の心の中に暗い影を落としています。今後の治安維

持はどうなるのでしょうか。現状での治安維持体制から伺います。

北芝（以下 **北**）警察関連に関しては私がお話ししましょう。事件発生後の捜査を迅速にかつ効果的に行うためには、警察の予算、人員が極めて不足していますね。犯罪のハイテク化、住民の相互監視が希薄になった為の情報不足、外国人の大量流入など、日本の社会が旧来の体制から急激に変わってきていて、犯罪捜査に一層手間がかかる様になっているのに、警察の予算、人員は削られるばかり。例えば、読者の方の家の近所にも「警官のいない交番」があるのではないのでしょうか。予算がないから交番に人員を割けない——。現実的に考えれば、この体制で犯人逮捕が迅速に行えること自体が不思議。警察を責める前に、国家の予算体制から見直していく必要があります。

リー（以下 **リ**）予算自体は警察が決める事じゃなくて、財務省に決定権限がありますからね。だから、冗談ではなく財務省の高級官僚達を、常に犯罪と背中合わせの場所に置いておくといいかもしれないですよ。

荒木（以下 **荒**）それで予算が下りれば、犯罪捜査が迅速に行えるだけでなく、犯罪を未然に防ぐ警備体制も整ってくる。官僚は自分が一番かわいから実現性はあるかも。

北 首都移転の前に、財務省だけ新宿・歌舞伎町に移転する！ 官僚の連中、日本がいかに危険な状況になっているかわかるでしょう。まあ、その歌舞伎町は石原都知事が浄化作戦を行っている最中ですが、浄化作戦の後を官僚が見届けることも意味があるかもしれないですね。

荒 米国でも、犯罪逃亡者はいかがわしい地域に逃げ込む。その逃亡地帯をなくすことにおいても意味がありますね。

北 「破れ窓理論」っていうのがありましてね。それは、ビルの窓が一つ壊れているだけに、放置して

おくと、他の窓も壊れていってしまうという輩が現れ、次第にビルが崩壊していくというロジック。ニューヨークではジュリアーノ市長がその「破れ窓理論」に基づいて、落書きや吸い殻のポイ捨てなど小さなアンモラルな事も見逃さず、取り締まっていたら治安が良くなってきました。

リ 要は、いかにこの国のことを思っているかが、そんな緊縮財政の中では無理だ、という役人がある

なら、過去の日本人の英知を見直すべきです。例えば、女性が夜、一人で安全に歩ける道を最初に造ったのは日本人ですよ。織田信長が京都から安土までの道に定間隔に役人の詰所、今で言う交番と松明の灯り、これは街灯ですね、を置いた。国が繁栄する為には治安が第一、と信長は考えていたんです。それを秀吉、家康が受け継いで来て今がある。こんなに治安について意識が高くて、歴史的にも確固たる実績を残しているんだから、北芝さんが触れるような予算を削って体制を崩すようなことは考え直すべきでしょう。

取り戻せ!! 治安 冷血犯は

取材・文／編集部
撮影・写真／梅村博文



本誌読者待望の
特典記事満載コミックス!
中祥人先生渾身の
スタイリッシュな
描き下ろしカバーが目印!!

本誌
大人気連載!!
「バウンティハンター」
コミックス①・②巻
★同時発売
記念企画★

取り戻せ!! 治安維持世界一の誇り

冷血犯は現金で葬れ!!

北 予算、という観点から考えると、我々には今、非常にいい教科書がある。それが「バウンティハンター」です。米国の様に治安維持の為に賞金稼ぎ制度を導入する。リーさんが触れた「日本の過去に学ぶべき」とは、全く逆の意見にとられるかも知れないけれど、諸外国から学ぶべきことは取り入れるべきでしょう。

リ そうですね。民間人の力を活用して治安維持を図る。賞金制度なら成功報酬だから、たいした予算もか

からないですしね。

荒 交番の掲示板を見ると、オウムの指名手配犯3人が、延々と掲示されている。いつまで経っても、その足取りさえつかめない。でも、それは3人にかかれた賞金が低いからではないかと思うわけです。たった200万円。それが1000万円とかわったら、市民の意識も変わってくるでしょう。

北 その賞金額だったら、私、彼らを追いかけ出します(笑)。まあ、金の問題ではなくて、「高額賞金」II「我々の世界を乱す者」と皆、思うようになる。だが、現状では、オウムの指名手配犯は「我々には関係ない人」ですから。

リ それに、高額賞金がかけられれば、いつかは荒木さんの様な強面の人に追いかけられることになる(笑)。他人のことは言えないけど(一同笑)。そうすれば、犯罪抑止にもつながりますからね。

荒 犯罪抑止では、過去の特定の犯罪データベースを市民に開放することも効果的になる。よく「更正した人の人権侵害になる」などと言われますが、幼児性犯罪なんか再犯が多い訳です。米国では性犯罪者のデータベースが公開されていますが、ほとんど人権侵害などと言われない。一部に30年前に性犯罪を犯した人が「もう爺さんなんだから、データベースからははずしてくれ。もう犯罪なんか出来ないよ」という要望があるくらい。素地が反社会的な人間ですからね。監視下に置けば、奈良女児殺害

MEAN
MUGGIN'
NOW!



KEN KITASHIBA 北芝 健
元警視庁刑事。刑事警察や公安警察に在籍し、殺人、強盗、傷害、詐欺、強姦、麻薬などあらゆる事件を扱う。ロス市警、FBIとも交流があり、その人脈は幅広く、あらゆるカテゴリーに情報網がある。本誌連載中の「内閣権力犯罪強制取締官 財前丈太郎」原作者。



TERENCE LEE テレンス・リー
幼少時より武術の訓練を開始。古今東西の兵法・軍学を研究してきた。大学に進学後、渡欧し傭兵の世界に身を投じる。中米、南米、アフリカ諸国で様々な軍事オペレーションに参加。当時のコードネームがテレンス・リーである。現在は危機管理コーディネーター。



SHUICHI ARAKI 荒木 秀一
17歳で探偵事務所を設立。その後、インドネシアで警察の潜入捜査官(アンダーカバーコップ)を経験。米国ではFBIよりも権限が強いと言われる犯罪逃亡者追跡人(バウンティハンター)の正規資格、FRP連邦捜査官の資格を得る。

指名手配犯に高額賞金を!
オウムの指名手配犯もとつぐに捕まっている。荒木

事件の様な悲惨な事件も防げる可能性があります。いずれにしても、今のままでは世の中がドンドン暗い方向へ向かっていきます。賞金稼ぎ制度などの導入は長い時間がかかるでしょうが、今、我々が出来ること、交番に掲示されている指名手配犯に気を配るとか、特殊法人への補助金がバラ撒かれているんだったら、全交番に人が配置できるように警察予算を割け、と声高に叫ぶ心構えであることが大切だと思いますね。

対談に参加していただいたテレンス・リー氏が出演する「サンデー・ジャポン」(TBS系列、毎週日曜日朝10時より放送中)の提供で、現在、人気爆発中で品薄の状態が続く「テレンス・リーカレンダー」を抽選で読者の方5名に特別プレゼント致します。ご希望の方は、官製ハガキに住所、氏名、電話番号、年齢、ご職業、本企画に対する感想を記入の上、〒180-8799武蔵野郵便局私書箱11号「週刊コミックパンチ・バウンティハンタープレゼント」係までお送り下さい。メ切は2月末日(必着)。尚、当選者の発表は発送に換えさせていただきます。

